

令和5年度 理事研修視察報告書

1 研修1日目 ①前橋市の住民自治組織等について

- 日時 令和5年9月25日(月) 午後1時30分～午後3時30分
- 場所 道の駅まえばし赤城 榛名デッキ2階会議室
- 出席者 前橋市出席者(別紙名簿のとおり) 7名



■説明の内容

(1) 群馬県前橋市の概要

- ・人口 330,358人(令和5年4月1日、住基台帳) 県内第2位の都市
- ・総面積 311.59Km²
- ・特色 赤城山のふもとにある歴史とウォークアブルに変化する街、アートを楽しむまち街。

(2) 住民自治組織の状況について

- ① 住民自治組織の名称 前橋市自治会連合会 会長 三橋 好
- ② 設立年月日 昭和42年4月1日(市行政自治委員会として設立)
- ③ 組織 前橋市自治会連合会 24地区 事務局 前橋市市民部市民協働課
- ④ 加入状況 加入世帯数 131,813世帯 加入率 85.9%(R5.4.1現在)

⑤ 市が委嘱する事務「前橋市自治会関係行政事務の委嘱に関する要項」以下、要点のみ

この要項は、平成25年4月1日から施行され、10年経過していますが、市長は、行政事務の一部を自治会長に委嘱するというもので、

- ① 広報等の配布、行政文書の配布・回覧
- ② 調査書・報告書などのとりまとめ
- ③ 各種委員の推薦(防犯協会会員、交通指導員、民生・児童委員、保健推進員など)
- ④ 防災防犯や地域福祉、教育、文化、社会奉仕、環境美化など行政との連携に関すること

大変幅広い行政分野について行政事務の委嘱をしています。そして、対価として報償費の支払いを第5条で明示しています。

⑥ 広報等の配布の方法 自治会が配布することを基本としている。

・市作成回覧物については、市が各地区支所・市民サービスセンターに配送、その後各自治会内で配布又は供覧する。

・その他団体等からの配布物については、団体が市に依頼し、市が配送し、自治会が配布している。

⑦ 自治会・町会未加入世帯への対応について

・市として加入の呼びかけは行っていない。各自治会で転入世帯に対して呼びかけを行っている場合もある。(加入率 85.9%)

⑧ 自治会連合会の予算 予算額 1,074 千円

・市から各町会に自治会一括交付金*が支給されている。また、事務局は市民協働課職員が対応。

⑨ 市から町会への補助金 「自治会等に関する助成制度について」より

■自治会一括交付金について

・年間予算額 4 億 5 千 6 百万円強の金額を各自治会（町会）に交付している。

・基準は、世帯割 1 世帯当たり 1,600 円に世帯数を乗じた額

人数割 高齢者 75 歳以上、1 人当たり 3 千円

定額割 1 自治会当たり 18 万円

タブレット管理加算 1 自治会当たり月額 1 千円

その交付金の対象となる事業は、以下の 4 つ

① 行政連絡事務事業

② 高齢者地域交流事業

③ 環境美化活動に伴う事務事業

④ 生涯学習奨励事務事業 の 4 事業に対して交付するとあります。

【質疑応答】

(質問 1) 町会長への研修についてお聞きしたい。金沢市では町会長が 2 年で変わる町会が多い中、「元気の素ハンドブック」を作成して、配布している。前橋市はどうか。

(回答) 以前は、自治会長研修視察があったが、やめて、今は、講演会や市長や市幹部による行政の説明会を開催することにより研修としている。

(質問 2) 前橋市は、2018 年 8 月に 100 年先を見据えた都市の指針である前橋ビジョン「めぶく」を行政と民間が一体となって都市魅力アップ共創(民間協働)推進事業として制定した。以降、街の発展に思いをよせる市民活動や前橋に地縁を持つ企業団体による「前橋アーバンデザイン」によるまちづくり(事務局:前橋デザインコミッション・MDC)が展開されていると聞いています。こういう流れにあって自治会活動は、どのような状況にあるのか。「めぶく」の理念を元に活動している市民団体との連携など教えて欲しい。

(回答) 「めぶく」という概念は、市の計画・ビジョンのキーワードである。また、MDC が活動しているのは市の中心部で活発に行っており、特に、自治会活動とは関係は少ない。ただ、MDC の活動により民間市民団体の動きを知ることができるので、住民としてもプラスになっていると思う。

※MDC の事業の馬場川通りプロジェクトでは、都市利便増進協定の中に前橋市とともに馬場川地元自治会も事業に参画している。

都市利便増進協定とは、都市再生特別措置法に基づき、地域のまちづくりのルールを地域住民が自主的に定めるための協定制度です。この協定制度は、地域住民が一体的に整備・管理を行うことで、住民や観光客の利便を高め、まちの賑わいや交流の創出に寄与する施設(都市利便増進施設)を整備するために締結されます。

この協定制度は、広場・緑地、広告板、街灯、ベンチなどの施設の整備やイベントの開催などを支援することができます。

(質問 3) 自治会一括交付金について、この交付金は、特定の目的を持った金銭で報償として一方的に交付するものです。前橋市内には、284 自治会ありますから、先ほどの基準を基に私の町会の規模を考えますと平均 160 万円の交付金が各町会に支払われることになります。一つの町会にあっては、大きな金額であります。金沢市は、ごみ回収協力奨励金制度や回覧板配布協力金など個別にはありますが、それは地区自治会連合会までで、各町会への交付金は金沢市にはありません。この交付金について教えてください。

(回答) 私の自治会を考えますと、1300 世帯あり、年額 900 万円の内、一括交付金は 360 万円、収入に対する割合は 55%になります。ただ、加入率は 89%もないが、890 世帯から年会費として 3600 円いただいている。ただ、金額の割には、町会長の負担が大きい。つまり、各行政委員の推薦の件で、自治会内の成り手不足で推薦する人物が少なく、大変苦労している。この交付金の一つの弊害もある。(ただ、参加した前橋市の別の副会長は、交付金は助かっているとの話もあった。)

1 研修 1 日目 ②前橋市の交通政策について

－前橋市の移動手段充実に向けた取り組み－

■説明 前橋市交通政策課 南雲係長

■説明の要点(当日の前橋市からの資料から抜粋)

① 前橋市の特徴

- ・自家用車保有率全国 4 位(群馬県 1 位)、中核市 60 市中世帯当たりの自家用車保有台数 2 位
- ・複数の交通事業者(バス 6 社、タクシー 9 社)
- ・中心市街地の衰退
- ・車依存の社会で、免許非保有者の外出率が低く、送迎負担が大きくなってきている。
- ・また、中高生の交通事故が非常に多い。高校生は、都道府県で全国 1 位、中学生は 2 位

自家用車依存度が高く、バス・鉄道の利用者が少ない。また、高齢化の進展により市民の移動に関する課題が顕著化してきている。

② 市内公共交通の現状

- ・JR 両毛線、上越線、上毛電鉄を軸に前橋駅を中心にバスが放射状に運行している。つまり、各方面からバスがまちなかで重複して運行している。郊外(合併前の町、村)ではデマンド交通を運行している。
- ・民間の上毛電鉄は、昭和 40 年の 958 万人をピークに、令和 4 年は 130 万人と減少。
- ・市内の路線バス利用者数は、直近 5 年では微増するも、コロナにおいて大幅減少

③ 市内公共交通の課題と方向性

乗り合いバス…市委託路線の赤字欠損額を補助	415 百万円
上毛電鉄…上下分離方式によりインフラ部分について県及び沿線市で補助	154 百万円
マイタク…高齢者、障がい者のタクシー運賃の半額（上限 1,000 円）を補助	71 百万円

・サービスの追加と共に補助金は増加しており、年間合計 6 億円を投入。

ただ、人口の減少に伴い、市税の減収が見込まれるなか、これらの維持が限界に来ている。

・これからは、市域に一律な投資を続けるのではなく、居住地や都市機能を誘導する拠点を設け、都市をコンパクト化、公共交通ネットワーク化するまちづくりの推進をめざす。

④ まちなかにおける利便性の向上

- ・まちなかにおける官民協創まちづくりをめざし、令和元年 9 月前橋市アーバンデザイン協定を締結
これは、まちなかにおける民間主体のまちづくりを推進するための指針で、ウォークアブルなまちをめざし、官民連携による事業を展開している。
- ・本町ライン等間隔運行（共同経営）が令和 4 年 4 月 1 日から運行

これは、前橋駅から中心市街地の約 1km、県庁までの 3km の距離を前橋駅から「本町」を経緯し、県庁までの 6 社 11 路線を午前 10 時～午後 4 時までの間、5～15 分間隔で共同運行を開始し、「本町ライン」として時刻表、バス停のデザインを一新して運行している。

⑤ 郊外におけるデマンドバスの導入（詳細は、資料参照）

・郊外ではデマンド交通を望む声が多く、3 つの地区で「ふるさとバス」、「るんるんバス」、「城南あおぞら号」の 3 つの路線を運航している。特に、城南地区では住民主体のデマンド交通を導入している。

⑥ その他の取り組み

■地域交通連携 IC カード「nolbe【ノルベ】」を令和 4 年 3 月から導入し、市内全路線に導入し、概ね 7 割がカードによる決済となっている。バス会社 6 社共通。

■マイタク制度（タクシー運賃補助）

・市長公約の 100 円タクシーから検討を加えて、今回の制度におちついた。

○登録条件

- ・75 歳以上の人、
- ・65 歳以上の人で運転免許証のない人
- ・障害のある人、要介護・要支援認定者など、運転免許を返納した人など
- ・登録者が 1 人の場合、タクシー運賃の半額（1 運行の上限 1,000 円）
登録者が複数乗車の場合、1 人 1 乗車につき最大 500 円支援）

⑦ 自動運転技術バスの導入の取り組み

・一番の問題点は、のりあいバスの運転者不足の解消・・・増便どころか、不足により廃線・減便の恐れ。

■実証実験のきっかけ

・群馬大学に次世代モビリティ社会実装センター（CRANTS）が設立され、限定区間で完全自動運転（レベル 4）の実現を目指し、公道での実証運転を前橋市に打診したことから始まった。（2017 年）
・自動運転は、GPS と走行ルートについてあらかじめ調整した 3D マッピングにより自車位置を測定し、運行するもの。

・現在は、運転手が 1 名乗車しているが、目指す姿は、コントロールルームからの遠隔制御であり、1 人で 3 台の運行を可能としている。

・これまで、中心市街地で一般車両と混在しながら実証実験を行っている。毎年度、自動運転技術を向上し、全区間の自動運転走行が可能となっている。

・一方、市民の反応は、早く実用化を望む声が多い。

・今後の課題としては、1 車線区間での駐停車車両があった場合の追い越しや GPS 不感時の自動測定ができないときの手動運転への切り替えや、ロータリー内の運行、右折待ち車両が停止線をはみ出して停止している場合などの手動運転への切り替えタイミング、介護を要する人の利用への補助の問題などがある。

・現在、2025年度の実装をめざし、実験を繰り返している。日本は、国内の道路も狭隘なところから、予期せぬ事態にどう対処するか、課題は多くあるが検討が重ねられ進められると思われる。

【質疑応答】

(質問) 群馬県の6社のバス会社がJR東日本の「地域連携 IC カード・ルベ」を2022年から導入していますが、更に前橋市はスイカとマイナンバーカードのひも付けを進め、「地域交通サービス・グンマース」を始めていると聞いていますが、今後、どのように展開していくのか。

(回答) 説明では詳しく説明しませんが、国はデジタル技術で地方活性化を促す「デジタル田園都市構想」の総合戦略を22年12月までまとめ、その中でスイカなど交通系 IC カードとマイナカードのデーターをひも付ける事業を地方に促している。群馬県でもそれに呼応して地域交通サービス・「GunMass(グンマース)」としてひも付けを始めたわけです。前橋市民は IC カードで210円の区間を100円で乗れます。差額は、市が負担しています。ただ、高校生を下げるためには、マイナンバーカードの情報が必要で、実際には、スマホとマイナンバーの取り合わせにより利用しやすく考えている。

(質問)LRTの導入は考えていないのか。

(回答)宇都宮のようなLRTも検討したが、人口減少が進む中、投資に見合う事業収支は見込めない。それより、バスの自動運転によるバス路線の確保の方が前橋にあっていと判断した。

(質問)バス運転手の確保するのか難しい中、女性バスの運転手はどうか。

(回答)人数まで答えられないが、増えていることは間違いありません。

2 研修2日目 令和5年9月26日(火)

研修2日目は、前橋市を離れ、富岡市に移り、一之宮貫前神社を参拝し、世界遺産の富岡製糸場を見学した。

【参考資料】前橋アーバンデザイン(MDC)とは

- ① 前橋アーバンデザインは、「めぶく」ビジョンに基づいて前橋市が策定したまちづくりの基本方針。
- ② 具体的には、19年9月市が中心となり市民の声を集め、地元・海外の専門家の力を借りてまとめた前橋市中心市街地 158ha（前橋駅から中央前橋駅から県庁）について「なりたい姿」
- ③ 「アーバンデザイン・ガイドライン」として、「にぎわい」や「使い方」といった点を重視した建築物及び公共空間デザイン指針により、まちづくりについての基準や視点が示されてる。
- ④ そのまちづくりの指針とは、
 - ・まちなかに住み、働く、・水や緑の環境でリラックス、・徒歩や自転車でまちを回遊
 - ・広瀬川や利根川を楽しむ、・通りや広場のさらなる活用、・お店の賑わいを外へ
 - ・独自の文化を楽しむ、・ICT や先進技術を活用する
- ⑤ アーバンデザインモデル事業
 - ・けやき並木通り、広瀬川河畔、馬場川通りが主な事業個所

広瀬川湖畔の緑道整備



民間企業による事業・白井屋ホテル

馬場川通りの歩道整備中



民間企業による事業・ギャラリー前橋



民間企業による事業・弁天アパート



太陽の鐘 広瀬川改修事業



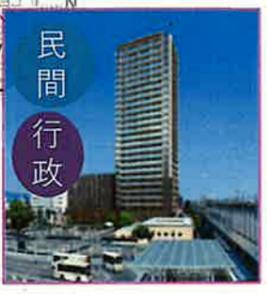
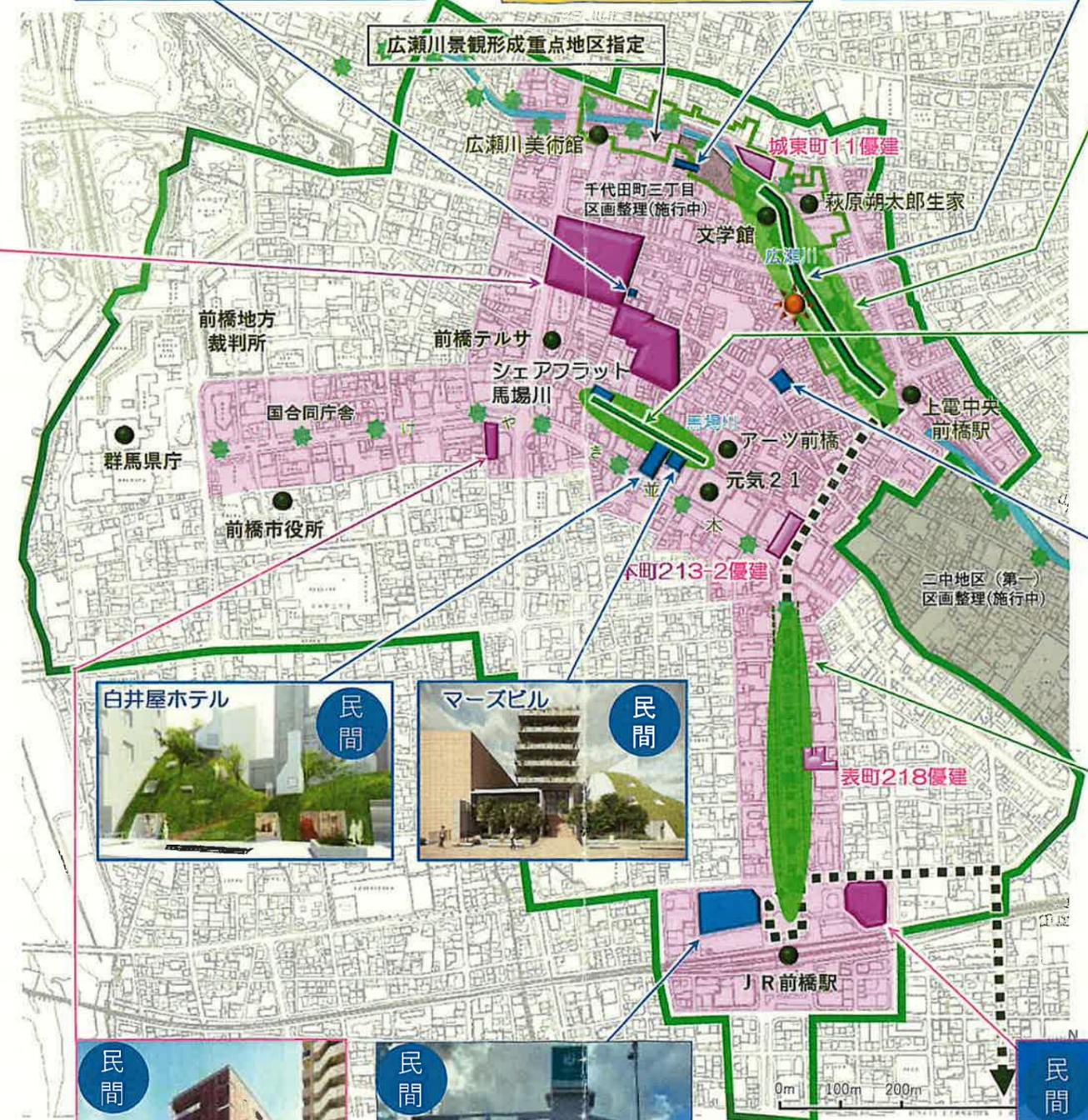
【前橋市中心市街地 官民連携事業一覧】 令和5年4月

前橋デザイン委員会
「アーバンデザイン」及び
「グリーン&リラックス」の推進

千代田町中心拠点地区再開発事業 イメージ



リノベーションまちづくり



前橋市アーバンデザイン策定区域

市街地総合再生計画重点施策区域

前橋市 出席者

	役 職	氏 名
1	前橋市自治会連合会 会長	みつはし よしみ 三橋 好
2	// 副会長	ふくもと みのる 福本 稔
3	// 副会長	かさはら りょうへい 笠原 良平
4	// 副会長	みずの わたる 水野 渉
5	前橋市市民部市民協働課 地域振興係長	おだ ひろかず 小田 浩和
6	// 地域振興係 主任	かすが かずひと 春日 和人
7	前橋市未来政策部交通政策課 総合交通係長	なぐも さだと 南雲 貞人